

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当	
A-142	A-179	23-065	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Changes in alcohol consumption during the COVID-19 pandemic: a longitudinal cohort study using smart-breathalyzer data COVID-19 パンデミック時のアルコール摂取量の変化：スマート飲酒検知器データを使用した縦断的コホート研究			
執筆者			
Houston PD, Vittinghoff E, Marcus GM.			
掲載誌			
Sci Rep. 2024 Feb 8;14(1):3304. doi: 10.1038/s41598-024-53757-y.			
キーワード		PMID	
アルコール飲酒、 COVID-19、 コホート研究、 パンデミック		34164972	
要 旨			
<p><b>背景：</b>アルコール販売やアルコール関連傷害等のデータ、および各種調査に依拠した先行研究は、COVID-19 パンデミック中のアルコール消費量の増加を示している。Bluetooth 型のスマート飲酒検知器は、呼気アルコール (BRAC) 測定値を自動的に追跡、保存、タイムスタンプする高精度の装置であり、近年急速に普及している。本研究では、これらの機器を活用し、COVID-19 パンデミック期間中のアルコール使用の傾向を明らかにする。</p> <p><b>方法：</b>飲酒検知器による BRAC 測定結果を活用し、アルコール摂取量について客観的かつ縦断的な評価を実施した。各暦日に記録された最大 BRAC 記録のみを含めるようにし、574,896 件の分析用 BRAC 記録を得た。測定時の屋内退避指示と BRAC の関連を分類するために、米国疾病対策センター (CDC) の避難指示データベースを相互参照し、4つの期間に分類した。期間 1 は、2020 年の初めから屋内退避が義務化された郡数の 25% (554 以上の郡) が施行された翌週 (2020 年 1 月 1 日から 3 月 30 日) までである。期間 2 は、屋内退避命令が 25%以上実施された 2020 年 3 月 30 日から 5 月 25 日、期間 3 は 2020 年 5 月 25 日-2021 年 1 月 1 日、期間 4 は、2021 年 1 月 1 日- 6 月 4 日である。BRAC 測定値は、週ごとに、①アルコール摂取が検出された BRAC 記録の割合 (0g/dL 以上) とアルコール摂取が検出されなかった BRAC 記録の割合 (0g/dL) の比較、②法定運転制限値以上の BRAC 記録の割合 (0.08g/dL 以上) と制限値未満 (0.08g/dL 未満) の割合を比較した。解析は、個人ごとにクラスター化したロバスト標準誤差を持つ線形回帰モデル (個人内の反復測定を考慮するため) を採用した。さらに、各期間内の BRAC 割合の週平均変化を推定・分析するために、暦日別の線形スプライン回帰を用いた。</p> <p><b>結果：</b>28,452 人の対象から 1,038,117 件の BRAC 観察を得た。期間 1 では、飲酒量が減少し、期間 2 の間増加した。期間 3 の間では統計的に有意な減少がみられ、期間 4 で再びの増加がみられた。屋内退避と飲酒の間には、統計的に有意な関係は検出されなかった。</p> <p><b>結論：</b>これらの知見は、パンデミックとアルコール消費パターンとの間に複雑な関係があることを示し、一般的に消費されるこの物質の使用に関連し、観察されたパターンから長期的な影響に関連する可能性のある洞察を提供するものである。</p>			